

研修名 保育実践（運動あそび）

平成30年7月9日（月） 13：15～15：30

講演・演習 「関係性を育む運動あそび」

講師 はつとこども園 片山 喜章 氏



1 講演要旨

《ルールづくりと展開のポイント》

- ① 全ての子どもが主役
『全員が常時参加＝待ち時間なし』
簡単なルールの遊びを短時間で繰り返し行う
- ② 同じパターンの遊びを繰り返す＝理解と関係性の深まり
ルールを理解するために必要な時間は個々によって違う
同じパターンで繰り返し行い、自分なりにルールを理解し、判断する
いつも関わっている友だち以外との関係性づくりにも繋がる
みんなが理解出来たら段階的活動に切り替え、ルールの変化に適応できる
- ③ 保育者の柔軟な展開＝高まる愉悦感
遊び途中で 速さ、動き、ルールの内容にアレンジを入れることで子どもの
愉悦感が変わってくる
- ④ 導きのスキルと見守り＝したくない子への対応
したくない子ども、出来ない子ども、トラブル等、子どもの気持ちを受け止める
参加したくなるような簡単な内容からスタートし、少しずつルールに変化を
加えていく
出来ることだけが良いのではなく、出来ても出来なくても、トラブルになっ
ても全てが大切な経験

《実践》

- ① キラキラじゃんけん（貨物列車のアレンジ Ver）
貨物列車と同様にジャンケンをしていき、負けた先頭の人だけゲットでき、
後ろにいる人達はキラキラしながら一人ずつになる
- ② あいこでドッカン！（貨物列車のアレンジ Ver）
ジャンケンで勝った場合は貨物列車と同様、あいこになった場合、先頭の子
どもの「あいこでドッカン！」を合図にみんなばらばらになる
※①②と共に、繰り返し行うことができ、全員が常時参加できる
※遊びも普段と少しルールを変えると新鮮で楽しめる

- ③ 椅子取りゲーム→触れ合い
1. 椅子の数が徐々に減り、座る場所がない子どもは友だちの膝の上に座って良い
※自然と2人組になり、触れ合いができる
 2. 半数まで椅子が減ったら半分ずつ座る“チェアをシェア”に変更
※ペアが変わることで友だちとの関係性が広がる
- ④ フープ電車
- ・フープの中と外に分かれ、2人組で電車。相手を見つけ、ジャンケン負け→中と外を交代する 勝った→そのまま
※フープの特性を活かし、場所を有効活用→場所移動
※ルールの理解ができていない子ども→繰り返しの中で理解しやすくなる
- ⑤ アルプス一万尺
- 曲に合わせて触れ合い→2人→4人→10人と増やしていく
※そのままグループ遊びにも繋げられる
- ⑥ フルーツバスケット→子どもたち自身がフルーツとなって動く機会を増やす
- ・3人1組で3種類が基本→仲間を探す
- ⑦ ジャンケン宝取り列車 喜びも悲しみも分かち合う
- 3～4人の列車を作り、宝（カプラなど持ちやすいもの）を2つずつ持ち、ジャンケンで負けたら相手に1つ宝を渡し、先頭は後ろに回り替わる宝がなくなったらみんなで何かポーズをして1つもらい、続けて行う

2 感想

今回の研修では、普段保育所で行っている集団遊びも多くありましたが、少しルールを変えることで、最後まで一人一人が主役となり楽しめることを学びました。同じ遊びを繰り返し経験することで、子ども同士で考えて動いたり、仲間を見つけたりして、自然に友だちと関わり、関係性を築くことが出来ると感じました。

また自分自身が参加してみて、ぶつかり合いがあった時や力を合わせて出来ないことがあった時、保育士がすぐに間に入るのではなく、子ども同士で解決しようとする力を信じることは大切なことだと思いました。時には、解決出来ずに悔しさを味わうことが友だちとの関係性を築いていくためにとても大切な経験だと改めて感じました。

今後保育していく中で、誰もが遊びの中心的存在となれるように遊びを工夫し、ルールを変えていくことが子どもたちの関係性が育まれ、やっつけて楽しいと思える触れ合い遊びをしていきたいと思います。



(記録 京田辺市立河原保育所 北野 友梨)